## 事務事業評価&総合計画実施計画調査シート

	コード		名	称		区分	コード		名	称	
事業名	162	人権啓発推進事業				会計	01	一般会計			
尹未口	102					款	02	総務費			
基本	38	万いた訒を		項	01	総務管理費					
施策	30	五いて前の	互いを認め合い、すべての人の人権を尊重する					人権啓発費			
施策	4	人権啓発活動の推進			細目	101	人権啓発推進	経費			
ルス	4	八惟古光	(惟古光冶動の推進)			細々目	01	人権啓発推進	経費		
基本	基本計画該当頁 147				行	革大綱の	の重点	点事項番号			
担当部課	コード	6 0 2 1 0 0		Ì	平価者		奥永悦子	連絡先	59 ·	- 2152	
ᅏᅃᄄᄄ	名称		島ヶ原人権	政策推進室		氏 名	<b>兴水</b> 况于		连胎儿	(内線)	

事業	の計画	内容										
	対象等(何を、誰を)							成果(どうなるのか)				
事業目的	島ヶ原支所管内の市民							地域において、人権問題に主体的に取り組む意識が高まる。				
10.4	Ln > L A	T / 10 66	(対象	件数		)						
10431	処法令・											
	<u> </u>	平成	17	年度	関連事業							
終	了年度	平成		年度								
本年度事業内容	· 人権を · 人権的 島ヶ 一人で て考えた 日常	考える? 客発地区 原地区( )とりが た。 (生活に)	つどいを 別懇談: 主民の人 自分の心 ある身近	実施した 会を実施 、権問題 いと向き台 〔な人権「		の現実を認 の取組みに 考え、自分の	つし	変化	・地区住民の人権意識の現実を知り、地域の人権課題を 共通のものとした。また、人権課題の解消のためには地 域全体で取り組むことが大切であるという意識が醸成された。 ・講演会などの学習の場に参加し、人権問題の現実を学 び、正しい理解と認識に立って、自分のこととして取り組 まなければならないという意識が高まった。			

整備内容 1 建設用地 2 建設面積(延床面積) 3 規模·構造 4 総事業費

運営体制

建合体则			
1 運営主体	直営	□指定管理	□ 民間委託等
委託先			
2 配置(予定)人員			人
3 年間運営費			千円
4 市内の類似施設			

事業類型 ソフト事業 事業種別 継続 補助

車坐宝績

<del>了</del> 未天順										
活動指標	単位	実終	責値	目標値						
/白里//5日代示	丰田	H17	H18	H19	H20					
人権講演会の開催		目標	目標 2	2	9					
八惟神供云の用惟	Ш	実績 1	実績 2	2	2					
地区懇談会開催地区数	地区	目標	目標 8	8						
地区总数公用准地区数	地스	実績	実績 8	°	8					
		目標	目標							
		実績	実績							

2次評価対象分

評価指標

NT IPS PT AN											
事業の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位		実績	目標値						
事業の成果を則る相信	目標改定の考えり		H17		H18	H19	H20				
人権講演参加者数	多くの人々が参加することで、地域の人権意	ı	目標	100 E	標 150	180	190				
八惟确供参加有效	識の高まりにつながる。	^	実績	100 実	[績 160	100	190				
地区懇談会参加者数	人権問題について考える機会を多く持つこと	1	目標	E	標  190	220	240				
地区您談云参加有效	が正しい理解につながる。	^	実績	美	[績 190	220	240				

評価		
評価項目	ポイント	評価項目についてのコメント
必要性	4	人権問題の解決は、一人ひとりの正しい理解や解決に向けた行動が不可欠である。多〈の市民がつどい、共に学びあう機会として、講演会は意義のある事業である。
有効性		学習の機会を多くもった人ほど人権に対する理解や認識が高いことが、意識調査にも表れている。自分の意識に気づき、 正しい理解へと自らを高める場となっている。ただ、参加者の年齢階層や男女比に偏りが見られるため、若年層(子育て世代)の参加を促す必要がある。
達成度	4	年度内に計画していた事業はすべて予定どおり実施できた。
効率性	4	最低限の経費で実施しているためコスト削減の余地はない。

総合評価	事業の方向性	改善についての取り組み
Α	現状維持	情報提供や、関係機関との協働により、関心を高める。 住民の関心に沿ったテーマを設定し、幅広い層の参加を促す。

┃ 年度 ┃	平成17年度		成18年度決算内容	平成19年度 計画内容	平成20年度 計画内容	平成21年度計画内容	平成22年度 計画内容
	事業内容 数量	単位 金額 事業内	容   数量   単位   金額	事業内容 数量単位 金額	事業内容 数量単位 金額	事業内容 数量単位 金額	事業内容 数量単位 金額
基 委託 事業内容 進捗率	報償費 需用費 役務費 委託料	(千円) 48 報償費 924 旅費 113 需用費 1,405	13	60 報償費 339 旅費 7339 需用費 331 備品購入費 733	40 報償費 34   88 旅費 18   73 需用費 7   50 備品購入費 15	0 報償費 340   8 旅費 188   3 需用費 73   0 備品購入費 150   5 負担金 55	) (千円) (計円) (計画) (計m) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1
(%)	事業費計(A)	2,490 事業費計(/	36	69 事業費計(A)	10 事業費計(A)	0 事業費計(A)	0 事業費計(A) 810
事業投入人員	<b>人件費(B)</b> 0.5	人 3,600 人件費(B)	0.7 <b>人 5,0</b> 4	40 人件費(B) 0.7 人 5,0	40 人件費(B) 0.7 人 5,04	0 <b>人件費(B)</b> 0.7 人 5,040	(B) (A件費(B) 0.7 人 5,040

事業券(人件券除ハの財源内部

于来	東賀(人作賞除く) の												
( A )	事業費	2,490	369	810	810	810	810						
	国庫支出金												
A	県 支 出 金	1,127	87	146	146	146	146						
の財	地方債												
海	受益者負担												
一片	そ の 他												
一訳	一 般 財 源	1,363		664	664	664	664						
Α,	計	2,490	369	810	810	810	810						
供	その他特定財源の名称・補助基本額・												
神	率												
-5	地方債の区分と充当率等												